

講義名	国際法【経済学部】			
担当教員	則武 立樹			
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限	授業形態	講義	
履修開始年次	3年生	単位数	2	備考

主題と概要

TVのニュース等々では連日世界の惨状が繰り返し伝えられている。過去だけでなく、現在もなお、国家間の対立は時に戦争にまで発展し、国家主導による大規模な人権侵害が行われることも多々ある。これらは決して私たちには関係ないとは言いきれない問題なのである。そこで、学生自身が国際社会の一員として生きていくために、「人権」を守るためにどう関与していけばよいのかという必要な知識を身につけることを本講義の目的とする。

まずは、国際社会の成り立ちを理解し、「国際法」と呼ばれる国際社会のルールの観点から、先人たちがいかにして「人権侵害」に立ち向かい努力してきたのかについて学ぶ。また、下記の授業計画に沿って、今現在世界で問題となっている様々な事象、特にマイノリティを巡る人権侵害について、問題発生の経緯や現状、結果、問題点などを適宜解説していく。

到達目標

学生が国際社会で生じる諸問題について、その問題点、原因、現在議論されている国際社会の取り組み等、その問題の概要を新聞記事やニュース等から読み解くことができるようになる。
学生が同問題の解決について、論理的に思考し、自らの言葉で説明できるようになる。

提出課題

授業内にて適宜コメントカードの提出を求める。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

次回授業内にて解説する。

評価の基準

- ・平常点（出席、授業中の問答、コメントカードの提出状況）（30％）
- ・到達度の確認（70％）

上記の評価項目を総合的に判断して最終的な成績を算出する。

履修にあたっての注意・助言他

- ・本科目では、受講者が法学初学者であることを念頭に、抽象的で難解だと思われる「法」の話を出来る限り詳しく解説し、また、国際社会で実際に生じている具体的問題を取り上げることで、受講生の皆さんに「国際法」というものをより身近に感じながら学んでもらう予定である。わからない部分がある場合にはそのままにせず、積極的に講師に質問して欲しい。
- ・授業中の私語、スマートフォン及びパソコンなどの電子機器の操作等、授業と関係のない行動は認められない。悪質である場合には退室を命じるほか、減点の可能性もあるので注意すること。

教科書					
.使用しない。					

プリント資料及び参考文献

授業内にて適宜紹介する。

授業計画

第1回：オリエンテーション 「人権」って一体なんなのか？
 第2回：国際社会の法と構造(仕組み)
 第3回：「女性」を巡る人権問題 「文化」と「人権」の相克（名誉殺人/女性器切除）
 第4回：「LGBT」を巡る人権問題 「マジョリティ」優位社会における「マイノリティ」の扱い（同性間性行為の罰則撤廃、同性愛者の家族形成権 同性婚、子ども ）、
 第5回：「LGBT」を巡る人権問題 「マジョリティ」優位社会における「マイノリティ」の扱い（トランスジェンダー 性別違和者 の性別適合手術、戸籍上の性別変更、結婚と子ども）
 第6回：「子ども」を巡る人権問題－人身売買と強制労働、英倫現代奴隷法2015－
 第7回：「絶対的貧困層」を巡る人権問題 成功事例としての「グラミン銀行」の取り組みを考える－
 第8回：「難民」を巡る人権問題－ソリア/ロセンギヤ難民から見る国際機構の役割と限界－
 第9回：「少数民族」を巡る人権問題、アイヌ/アボリジニが直面する「文化の盗用(Cultural Appropriation)」－
 第10回：「犯罪加害者」を巡る人権問題－日本の死刑制度の基礎的理解－
 第11回：「犯罪加害者」を巡る人権問題－死刑存続に関する自決の差－
 第12回：「国籍」を巡る人権問題 従軍慰安婦問題を「感情論」を超えて考える
 第13回：「国籍」を巡る人権問題 在日朝鮮人/韓国人に対するヘイトスピーチと法規制
 第14回：「出自」を巡る人権問題－一部落差別とその解決策としてのアフターメディアアクションの効用－
 第15回：到達度の確認とまとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。まず予習として、自らのテーマについて、インターネット等を用いてどのような問題が発生しているのかを調査しておくこと。そして、受講後には当該授業内容の復習を行うこと。また、日常生活での心構えとして、国際関係に関する新聞記事やニュースに積極的に触れることも重要である。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目は、人間、社会、自然に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に着け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察し、課題を提案することができることとなることを目的とし、「流通科学大学学則」に基づき、経済学部経済学科に所定の期間在学し所定の単位を取得したことをもって、本学および経済学部経済学科の学生として卒業時に身につけておくべき資質・能力を身につけたものとみなし、「学士(経済学)」の学位を授与します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

コメントカードの活用により、一方的な講義形式ではなく、学生自身主体的に考えられるよう、双方向でのやり取りを行う。

実務経験の有無及び活用

備考

なし